

14.

1-1898

0246

附屬添附

亞細亞局

機密第六號

大正十四年一月廿一日

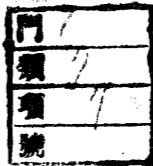
在吉林

總領事代理 深澤 謹



外務大臣 野島 啓

通商局



吉林省額穆縣農場日支合辦經營其他、計畫、關、ハル件

本件、關シ各年十月中奉天居住赤塚與清リ該農場趣意書目論見書、計畫書並日支關係者間、契約書寫等添附、上別紙信書寫、通リ申越有之新、事業計畫ハ今日ノ場合最又機宜ニ適シタルモノト認メ、依テ同時ニ支那側

在吉林日本帝國總領事館

合辦相手方ハ地方ニ在ル相當有力者ニシテ且ツ現在、吉林省當局トモ良好ノ關係ニ在ル者ヲ擇ブテ使ハスベキト日本側支那側名義人等ノ如キハ現今當地方面ニ在ラ何等ノ勢力ナキ者トシテナラズ松毓(秀濤)ノ如キハ奉天派ナリ、滿州ニ在ル省官憲側トハ何等ノ聯絡ク、寧口沒交渉ノ立場ニ在ル次第ニシテ本件ノ進捗ニ就ラズ今後糧々ノ困難ナルヲ免カセルベシ儀ト察スレ候

尚前記赤塚眞清ハ一月十三日金徳斗外一名ノ朝鮮人同伴當地ニ来リ、松秀濤、李惠臣等トモ商議シ數日滞在、後一先奉天、京城等ニ引レ、ケタルガ右事情等ニ關シテハ進テ別紙及報告候、茲ニ別紙信書並一件書類等、寫相添此候申佳候 故具

Handwritten signature and notes on the right margin.

本信寫送付先
在支公使 奉天總領事

在吉林日本帝國總領事館

1-1898

0248

甲
馬

并啓益々御清祥被為涉候段奉慶賀候

陳者平素御消息の御伺申候儀御宥怒下され度候
實は不肖眞清事此度我々國內の食糧調節と自給
自足の一端に供之目のは日鮮融合の大理想ト此ハ一
つは更りに以て日支經濟の共存ハ實センとする見地
して朝鮮總督齋藤閣下並前丸山警務局長の
賛同を得貴地松秀清、李惠臣と提携し、親穆縣運
轉、拉法兩站に地拾萬响地を撰定し、農場を經營す
べく別紙通り契約を締結し、着々進捗中ニテ、此處
之水ハ經營に付て支那官憲の諒解を得べく目下有
力支那人を介し運動中に御座候處、既往支那官憲
の態度より一して、おろしくおんれ、諒解を得ることハ
困難とは存居候也、百方手を盡したる結果、略諒解

在吉林日本帝國總領事館

を得る目口明きかけ申候得共、今此際公表するに於て
ハ、數多の障礙起るべく候に付ては、未だ公表する運
に、至らざるも、何れ支那官憲の承認を得、是ハ貴官
の御指導と御庇護により、是ハ目的を達する能は
るべく、小生に於てハ、愈々支那官憲の承認を得たり、上は前
記本事業を計畫するに、至りし根本趣旨に基き、專
心奮闘する目的に向つて、終始する覚悟に御座候、免
れ、此の内貴地に、より度存居候、是ハ付々の節、并
局の榮を得、
儀ハ御相談申上度候、得共本事業計畫に付て、單
に貴官の御臆中に、いれぬ、置き、被下度候、
儀ハ御見合と置き、被下度候、
右御消息御伺、旁々本計畫進捗の成行、御耳にまで
如斯御座候、
敬具

大正十三年十一月十一日

赤塚眞清

深澤 濶 様

待 又

在吉林日本帝國總領事館

1-1898

0250

寫
本

吉林省額穆縣農場
趣意書
目論見書
計
画書

1-1898

025

吉林省額穆縣水田開墾趣意書

我日本は明治以後台湾樺太朝鮮南洋ト其領域を増大した然し現人口八千萬人と年々増加する六十萬（約七千万人のうち如何に便宜に下すか且これ）カ食糧を如何に調節すべきかと云ふ根本策は未だ之を樹立し得ない而も現在に於て毎年四百萬石乃至五百萬石の食糧米の不足を来し之を外國に仰いで居るのである。

南洋米の移民滿鮮の殖民は當に人口調節の一大方策である然し從來の日本人の移民殖民率と米穀の生産率とから比較して考ふる時は人口の調節が直ちに食糧の調節に根本の解決を與ふるものであると断定する事は出来ぬとして食糧問題のみは依然として取残されて居るのである。

在吉林日本帝國總領事館

である

吾人は將來日本の對外的關係かうして恣心ふしても食糧の自給自足を圖りたい若し直ちに内地に於て之が出来ぬは之を朝鮮に於て台湾に於て求めたい而も若し朝鮮台湾に於てさへも自給自足の範圍に到着する事が出来ぬとすれば最も我國と接近した地運輸の最も便利なそして生産費の最も低廉な地に於て安價に吾が同胞の食糧に對して不安なき方策を樹てたいのである滿洲の地は廣漠にして利用未だ遍ぬからず泥澤荒蕪の地多くして施すに法を以てし開墾宜しきを得れば農耕の地となるべきものは甚だ多いのである彼の吉林額穆附近は平野遠く連

なり松花江の灌漑にありて古より良耕の地と稱せ
られて居るが其土壤よりするも亦灌漑よりするも
良田水稲の地と云し得べきもの日本臣敷二十万里に
渡りて約七萬町歩の廣域を耕作し得べし又支那
側地主と提携爲りたるを以て鮮人を使用して之
が開墾に従はんか鮮人十萬人をも此地に收容
するを得て一つは以て我國内の食糧調節と自給
自足の一端に供へ且つ日鮮融合の大理想に近づ
き一つは更らに以て日支經濟の共存に資せむとす
るのであるに茲に額穆水田開墾の趣旨を陳べて
大方の賛同を冀ふ次第である。

大正十三年 月 日

在吉林日本帝國總領事館

額穆縣農場

一位置

額穆縣は吉林省内にあり吉林城より二十里を東に去る地點にあり緯度より之を見る時は北緯四三・五〇に當り日本内地北海道旭川と同一緯度に位せり。旭川は北海道に於ける隨一の米産地たるを以て額穆縣亦米作可能の地なるを知らざるなり。

一面積

總面積(別紙添付圖面参照)

耕作地となし得べき予定地一〇〇〇〇晌(我々萬町步)あり。

一地勢

額穆縣は見蛟河流域に當り北に山嶽を背ひ東西南南に開け良好なる水田適地を形成し其河水は附近自然の密林中より發流せる豊富なる水量を有し灌溉極めて容易なる地勢にあり。

一土質

洪積層より成り土性は埴土に屬し地味肥沃なり。

一氣象

(一)氣候

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
額穆	零下 七・三	零下 三・四	零下 六・六	五・三	一四・四	一八・八	三九・九	二四・四	一四・七	六・二	零下 三・三	零下 四・八
旭川	零下 一〇・三	九・〇	四・四	三・六	一〇・一	一五・〇	一九・〇	二〇・〇	一四・四	七・〇	〇・八	六・〇

右表に示す如く額穆の気温は旭川に比し冬期は低温なるも植物生育期間たる四月以降十月に至る

気温は寧ろ温暖にして秋中夏期六七八九の水産生育上最大気温を要すべき期間は額穆の方旭川より常に高温なるが故に米作適良の気温状態にありと云はざるべからず。

(二) 降雨雪量

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
額穆	七、六	五、〇	二、八	三、九	五、〇	三、五	三、五	三、五	五、六	三、〇	二、六	二、五
旭川	六、五	四、〇	五、三	五、二	六、一	七、一	二、四	二、二	二、〇	三、〇	九、六	一、一

右表に示すが如く水稻生育期たる六七八九に適當の降雨あり元來滿洲米作の一缺點は降雨量の僅少なるにあるが右表に示すが如く額穆縣の如きは旭川より大なる降雨の事實を見て農場經營上には頗る天與の地と云ふも不可なかるべし。

在吉林日本帝國總領事館

(三) 日照時數

光線は稻の生育中に於て葉の同化作用に缺くべからざるものにして温度充分なるも苟も日光不足せんか良好なる結果を得る能はざるべし左に額穆及び旭川の日照時數を比するに日光不足なきを知るを得べし

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
額穆	六、六	六、七	六、三	五、九	五、七	四、九	五、七	六、五	六、二	六、二	六、九	六、一
旭川	三、三	三、七	四、五	四、九	四、五	四、一	四、〇	四、五	四、五	四、八	三、三	三、二

(百分率)

一、米作 (吉林商務會調查)
 左に現在耕地一晌(七反)の収獲高を示せば
 次の如し

	最上作	上作	平作
上等地	二八、九	二五、六	二一、〇
中等地	二三、〇	二一、〇	一五、〇
下等地	一七、五	一四、〇	一一、六
平均	二三、一	二〇、二	一五、七

在吉林日本帝國總領事館

目論見計畫書

額穆水田資金

初年度 二年度

三十萬圓 四十萬圓

資本償還方法

二年間据置三年目より利息を附して償還す。

收支豫算書

年次	小作料收入	貸付金收入	計入	支出	差引残高
一	二二〇,〇〇〇	九一,二五〇	三一一,二五〇	二九七,五〇〇	一三,七五〇
二	五八二,五〇〇	一八二,五〇〇	七六五,〇〇〇	三八二,五〇〇	三八二,五〇〇
三	八七三,〇〇〇	一五二,五〇〇	一,〇二五,五〇〇	四五一,五〇〇	五七四,〇〇〇
四	一,〇九七,五〇〇	一三三,五〇〇	一,二二〇,〇〇〇	四〇〇,五〇〇	八一九,五〇〇
五	一,三五八,〇〇〇	一三三,五〇〇	一,四八〇,五〇〇	四三九,五〇〇	一,〇四一,〇〇〇
六	一,七〇〇,五〇〇	一三三,五〇〇	一,八三三,〇〇〇	四七八,五〇〇	一,三四四,五〇〇
七	一,八四三,〇〇〇	一三三,五〇〇	一,九七六,五〇〇	五二七,五〇〇	一,四四八,〇〇〇
八	一,九八七,五〇〇	六六一,二五〇	二,〇四八,七五〇	三八〇,〇〇〇	一,六六八,七五〇
九	一,九八七,五〇〇		一,九八七,五〇〇	三八〇,〇〇〇	一,六〇七,五〇〇

在吉林日本帝國總領事館

支出豫算書

(延警、教育、其他の公務、倉庫)

年次	設備費	貯水排水溝渠工事其他	經常費	諸税	小作人貸付金	計
一	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四五,〇〇〇	一八二,五〇〇	二九七,五〇〇
二	三〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	一八二,五〇〇	三八二,五〇〇
三	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	一二二,五〇〇	四五一,五〇〇
四		三〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一六八,〇〇〇	一二二,五〇〇	四〇〇,五〇〇
五		三〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	一二二,五〇〇	四三九,五〇〇
六		三〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	二四六,〇〇〇	一二二,五〇〇	四七八,五〇〇
七		三〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	二八五,〇〇〇	一二二,五〇〇	五二七,五〇〇
八			一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇		三八〇,〇〇〇
九			一〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇		三八〇,〇〇〇
合計	一四〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇		九七七,五〇〇		

年次	第一年		第二年		第三年		第四年		計
	水田	畑地	水田	畑地	水田	畑地	水田	畑地	
地別	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
耕作面積	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
收穫高	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
石數	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
價格	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
計	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000

小作料收入明細書(一畝地我七段歩に當り)

在吉林日本帝國總領事館

第八年					第七年					第六年					第五年				
計	畑地		水田		計	畑地		水田		計	畑地		水田		計	畑地		水田	
	未墾地	熟地	熟地	未墾地		未墾地	熟地	熟地	未墾地		熟地	未墾地	熟地	熟地		未墾地	熟地	熟地	未墾地
100,000	5,000	10,000	25,000		100,000	5,000	10,000	60,000	30,000	100,000	18,000	10,000	50,000	30,000	100,000	31,000	10,000	40,000	30,000
		五	五				四	五	二			四	五	三		四	五	三	五
		三五,000	三七五,000				四〇,000	三〇〇,000	三六〇,000			四〇,000	二五〇,000	三六〇,000		四〇,000	二〇〇,000	三六〇,000	二四〇,000
		二五	四				二	二五	三			二	二五	三		二	二五	三	四
		九七,五〇〇	一五〇,〇〇〇				八,〇〇〇	七五,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇				八,〇〇〇	一〇,〇〇〇		八,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	九六,〇〇〇
一九八,五〇〇		五月 四八,五〇〇	十月 一五〇,〇〇〇		一八四,三〇〇		四月 四〇,〇〇〇	五月 三七五,〇〇〇	十月 一〇八,〇〇〇				五月 三三,〇〇〇	十月 一三三,〇〇〇		四月 四〇,〇〇〇	五月 二五〇,〇〇〇	十月 一〇八,〇〇〇	九月 九六,〇〇〇

在吉林日本帝國總領事館

計	第九年	
	未墾地	水田 熟地
100,000	5,000	25,000
		15
		375,000
		4
		150,000
198,500	47,500	150,000

在吉林日本帝國總領事館

1-1898

0260

經常費明細書

第壹年度

金五萬圓也

内譯

俸給及給料

二〇、〇〇〇圓

旅費

二、〇〇〇圓

消耗費

三、〇〇〇圓

糧石貯藏費

二、〇〇〇圓

雜費

三、〇〇〇圓

第貳年度

第壹年度同断

第參年度

金五萬圓也

内譯

俸給及給料

三〇、〇〇〇圓

旅費

四、〇〇〇圓

消耗費

三、〇〇〇圓

糧石貯藏費

三、〇〇〇圓

縮償却費

五、〇〇〇圓

雜費

五、〇〇〇圓

在吉林日本帝國總領事館

第四年度

金八萬圓也

内譯

俸給及給料

五〇、〇〇〇圓

旅費

五、〇〇〇圓

消耗費

四、〇〇〇圓

糧石貯藏費

五、〇〇〇圓

諸償却費

八、〇〇〇圓

雜費

八、〇〇〇圓

第五年度以降同断

在吉林日本帝國總領事館

支出豫算中明細書なき項目に對する説明

一、防水、排水、溝渠工事其他

防水堤、排水工事、溝渠開鑿其他整理を想像せり。

一、諸税

植付段別に對し地租、地方税其他一晌地に付金
參圓宛

一、貸付金

水田耕作者は五晌地に對し金壹百五拾圓畑地
耕作者には四十五晌地に對し金壹百五拾圓を
前貸して任家農具役畜種子及秋收まの
の生活等の資に充てしめ初年二分の一二年目
二分の一即ちニヶ年間に償還せしあるものと

在吉林日本帝國總領事館

す。(但無利息とす)

設備費明細書

第壹年度

金壹萬圓也

吉林(省)本省、現地事務所、四箇所什器及備品

第貳年度

金參萬圓也

吉林本社建築費、宿舍及敷地買收費

第參年度

金拾萬圓也

内譯

現地事務所、四、所建築費 四〇、〇〇〇圓

倉庫建築費及敷地買收費 六〇、〇〇〇圓

在吉林日本帝國總領事館

丙子
馬

契約書

...

...

1-1898

0269

合同

住所 吉林省

甲代表人 伊鏗額 (松秀濤代理)

李作舟 (李惠臣代理)

住所 奉天新市街

乙 赤塚真清

今於上開當事人之間訂立左開合同

第一條 上開當事人定約照此合同之規定合辦

左開事業

一 農產物之担保貸款

二 左開附帶事業

(一) 農場經營

(二) 糧棧

在吉林日本帝國總領事館

第二條 本公司稱為

第三條 本公司設總行於 遇有於營業上之必

要關係時經甲乙協商後得議設分號或出

張所

第四條 當事人出資額列左

一 金 甲

甲方所提出之地畝所估計之金額與乙方
之出資額相等為限作為甲之出資額
至於前項地畝之權利關係為甲之責任
須按照中國法令將所定之契照均提存
於公司保管之

一 金 乙

前項出資金應業務之必要而開付之

第五條 本公司置總辦一人副總辦一人甲為總辦乙為副總辦

第六條 執行本公司之業務須委任總辦副總辦

但關於營業方針須中日當事人協議決定之

第七條 為執行業務者之副總辦須於每年五月末日結算一次並提出左開書類

一、財產目錄

二、貸借對照表

三、損益計算書並損益分配表

盈餘分配方法另以當事人之同意決定之

第八條 本合同之期限自訂立合同之日起至滿三

在吉林日本帝國總領事館

十年為止

但經當事人雙方同意得延長其期限

第九條 解散之時由當事者共同清算之但清算

後尚有殘餘產業時須按時價出售於

中國人照當事者之出資總額分配之

第十條 本合同各條細則另由雙方商定

第十一條 本合同經中日官署之承認後始為有效

以上各條係代表人訂立繕具中日兩國文合同各

持中日文合同各一份

民國十三年十一月九日
大正

甲代表人 伊鑑額

(印)

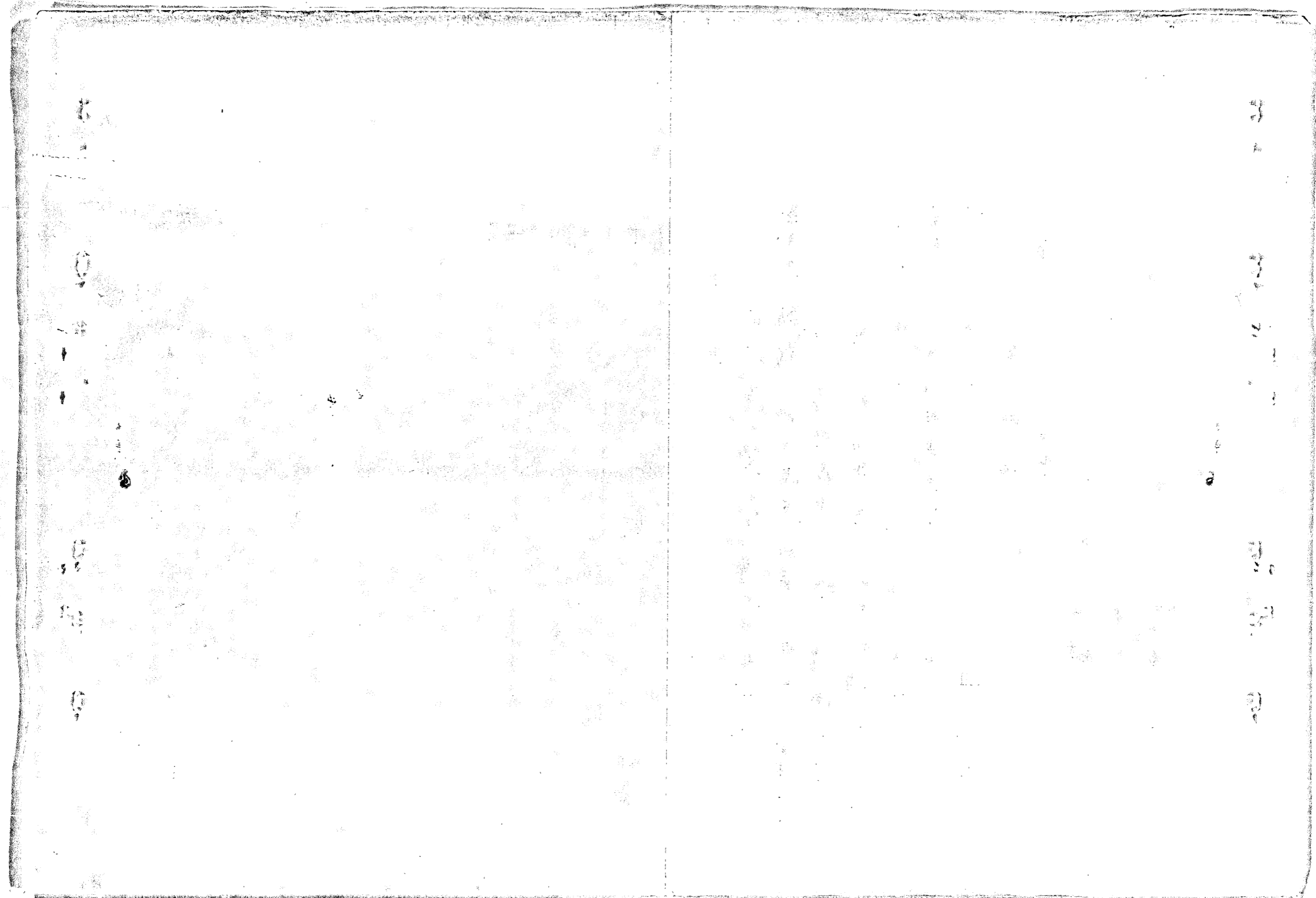
李作舟

(印)

赤塚真清

(印)

乙



1-1898

0268



通商局

亞細亞局

機密 七號

大正十四年一月廿二日

在吉林

總領事代理 深澤 星

外務大臣男爵幣原喜重郎 啟

吉林省額穆縣農場日支合辦經營其他ノ
計畫ニ關スル件

本件ニ關シテハ大正十四年一月廿一日附機密公第六號
信ヲ以テ及報告置置候處本件日本側關係者赤塚眞
清ハ一月十三日金德斗(極メテ日本籍ニ巧ム)外一名ノ鮮人普
天教ニ番目ノ頭(自由)同自由當館ニ未訪ノ上本件ニ談及シ

在吉林日本帝國總領事館

本件計畫ニ關シテハ目下意外ナル齟齬ヲ生シ居リ即チ支
那側相手方一人ハ松毓ニ在リハ前日赤塚ニ對シ自分等
ハ現在省長以下官憲筋下ハ餘リ都合良カラレ立場ニ在
リ此儘ニテハ事業ノ成立恐ラク六ヶ敷ニ付赤塚側ニ在リ支
那側民間有力者等ノ物色シ之ヲ聯絡進行方然ルベク措
置アリタリト云々(他ノ相手方ハ李惠臣(基督敎
牧師)ニ由リ之ニ及シ石指置方ヲ赤塚側ニ任ハテ得ルハ是非ト
又自分ニ在リテ運動スルニ付石要スル費用トシテ二十萬元ヲ
交付アリタリト主張シ居リ之ニ對シ金德斗等ハ極メテ表業ノ
如ク着實ニ事業ノ計畫ヲ立テニ當リ先ツ斯レ巨額ノ運
動費ヲ要求スルガ如キハ極メテ馬鹿ラシク申ス之ニ應ハズ
斯レ合ニアルベト意見アリシ為メ差當リ石要請ニ對シ到底其
ノ不可能ニ旨ヲ答ヘテ拒絶ノ態度ヲ示シ置タル次第ナリ金

鉄公所長並杉本ニ談ハル所アリタルニ右所長等ニ極クモ樺甸縣
内ニハ水田可滿地寧口豊富ニシテ且朝鮮農ノ移住者増加ス
ルニトハ地方開拓振興ノ上ヨリ見ルモ韓家ノ利益ト全ク一致スル
第ニ旨申居リ右ニ就テハ滿鉄本社側トシテモ亦勿論何等
異見カレズ答テ信レ居リ候

尚本件ニ關シテハ赤塚ニ極前記金應斗等ト同道未訪先
ヲテ單獨ニ一回未館面談シタルコトアリ其際ニハ當初本件計
畫ニ關シテ朝鮮側ノ出資者カ何レノ方向ナルヤハ見當付カ
ズ全ク丸山前警務局長ニ信頼シ居タル如ク第ニトコ口其ノ普天
教團ノ關係ニトシテ信田初メテ兼知シタル所ニテ該教ハ其信
徒朝鮮内ニ夥タシク從ツテ資金ノ如ク又相當支出シ得ヘキ實
力ヲ有セシ趣リト述ヘ居修然ルニ金應斗自身ノ言ニ依ルハ本
件計畫ニ基礎成リタルハ帝國政府ヨリ相當ノ獎勵

在吉林日本帝國總領事館

保護撥言ハハ資金補助ヲ與ヘラレシコトヲモ特待シ居ルガ
如クハ勿ク漏レ居リ修ニ付本官ニ極クモ金等ニ對シ本件ノ如
ク事業ノ基礎果シテ定マリ得タルトハ之カ獎勵ノ為メ相
當ノ資金補助等ヲ申請スルコトハ本官ノ為メ喜ブ所
ナル旨答ヘ置タル如ク第ニ有之候
何等御参考ト此段及報告候

敬具

本信寫送付先

在支公使

奉天總領事

要目付了

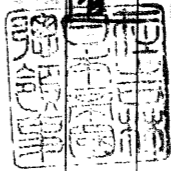
機密
1920

亞細亞局了 第一書記 支那事務課長

大正十四年一月三十一日

在吉林

總領事代理深澤



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

吉林省額穆縣農場日支合辦經營

其他ノ計畫ニ關スル件

本件計畫ニ關シテハ大正十四年一月二十一日附機密公第六號並同二十一日附機密公第七號松信ヲ以テ及報告置候處偶々滿鐵會社ト韓家トノ關係ノ為メ同社當地出張員杉本吉五郎

在吉林日本帝國總領事館

ニ於テ木材切出等ニ關ル現地ノ實狀檢分ノ目
的ヲ以テ同日當地ヨリ樺樹林子ニ赴ケタルヲ以テ
右出發ニ先ダケ赤塚等サシテ右杉本ト談合シ
該小作契約訂結ノ事ヲ杉本ニ委託セラルコト
シ本官ヨリ又杉本ニ對シ依囑シ置タル次第ナ
ルガ目下樺樹林子ニ滞在中ナル杉本ヨリ本件
ニ關シ一月二十五日附ヲ以テ別紙寫ノ通リ未信有
之ニ依リハ前報告中ニ申述ハ置タル如ク並天
教關係者タル金徳斗等ノ目前ニ於ケル困難ナル
立場ヲ切抜ケシハルノ便ヲ與ヘ得ヘクニテハ樺甸
縣内ニ於ケル水田可墾地ノ面積ハ實測ニ據ルニハ
アラサルニ相當廣大ナルヤハ疑ヲ容レサル儀ナルヲ以
テ或ハ赤塚等ノ計畫ハ吉林省内ノ他ノ地方ニ於

ヲ試ムル可クハ寧シク樺甸縣内ニ於テ之ヲ舉テ辨スル
方諸種ノ便宜ナクハ得易シク障碍ノ虞ニ從ツテ
チキヤノ知ルベカラズ要スルニ前記ノ如キ事情ナ
ニ付本件赤塚等ノ計畫前案ノ為メ好都合ノ
模様ト認メラレ候儀ヲ杉本ニ來函寫赤塚ヘ
送付致置候
何等御参考此段及報告候
敬具

本信寫送付先

在支公使 奉天總領事

在吉林日本帝國總領事館

1-1898

0273

大正十四年一月二十五日

北樺樹林子

杉本吉五郎

深澤 羅様

詳終たり候、韓家問題、付テハ常ニ御判力ニ預リ悉
 緒ノ至リニ奉存候、陳者過破御尊慮ニ預リ候、奉天
 赤塚眞清殿ヨリ御申込ノ件ニ關シ入山、姜經理
 ト又打合候處、同人ニ充分ニ諒解有之能シテ、要求ニ應
 ハルコト、相成リ申候、然シテ從來、木奇河ト漂河ノ二所
 ニ既移入、鮮人有之候、此等ハ久敷以前ヨリ定着
 省ニ一般ノ事情ニ因リ、從テ、不逞者ノ唆使ニ支
 配セラレテ、マテモ、幾分日人ニ對シ、常ニ好感ヲ有タルモノ
 ミトモ、考能ハサルマノ、感アリ、コレガ對策トシテハ、寧ニ、
 在吉林日本帝國總領事館

絡ル方面ノ移民ヲ招来スルコトハ却テ、事宜ニ適スル
 モトトモ思慮タラレ候、次第ニ候ニ付テハ、此際一先、其
 ノ事ニ當ルル、鮮人ナシテ、實地ヲ踏査セシメ、彼我ノ見
 ハ、主々、上ニ、協議スルヲ、相當トハ、レト、事ニ、協議
 一、次、致候、就テハ、此際、赤塚殿ニ、石、經過、御申通
 レ、彼下、修、事ニ、御願申上、度、候、而シテ、移民ノ、伺、所ニ
 就テハ、主トシテ、木奇河及漂河ノ、ニ、ケ、所ハ、既、入、者
 有之、修、事、故、直、ケ、コレ、入、ル、又、亘、敷、又、別ニ、新、十
 ル、地、點、ヲ、探、定、ハ、ル、又、可、然、免、ノ、鮮、人、ノ、當、事、者
 ナ、一、態、入、山、セ、ル、コト、ニ、候
 小生ハ二月半頃下山ノ豫定ニ有之候ハ、萬事其ノ
 際ニ在テ、御示教ヲ蒙リ候、事ト、致可申、併シ本年、日
 ソ着手ノ豫定トスルハ、一日ニ決、テ、シ、テ、要、ニ、ヤ、ニ、察、也

了候何レトモ右意向ニ就テ御思召依リ赤塚殿ニ
 御申上ニ被下候様御願出来ハ幸甚、次第
 御座候先、右御願マテ早々
 再々、韓家本年山元ノ作業ハ以御庇目順
 調ノ進行ヲ示シ居リ勇躍奮闘致居リ
 候、他事御放神被下度候、致具

在吉林日本帝國總領事館

1-1898

0275